

報告書第4号 待ちに待った枝豆収穫 7月・8月

《活動中の子どもの姿・つばやき、子ども同士や保育者との関わり》

●7月。みんなで育てた枝豆が大きな実をつけ、いよいよ収穫！！きゅうりやナス、パプリカとは違い、苗を抜きみんなで、1莢^{さや}ずつ苗から採ることに。

いよいよ収穫開始！！

みんなの分あるかな？？



子どもたちには、「採ったばかりの枝豆はどんな感触かな？」と問いかける。

子どもたちは、根っこを触って「もしゃもしゃしてる！」「ここからお水を飲んでたの？」と色々な事を感じていた。そして、今度は採れたての生の枝豆の莢に触れると、「ツルツルじゃないね」「毛がある」「ねえ、葉っぱみたいな匂いするよ」「絵本と同じだね」「まだ食べちゃダメだよ」と五感をフルに使っていろいろな事を発見し、互いの思いを伝えあったり、共有したりする姿が見られた。



根っこを触って…

「もしゃもしゃしてる」

「ここからお水飲んでたの？」

子どもたちは五感をフルに使って、

いろいろな事を発見！！

匂いを嗅ぐ子も！！



図鑑を横に置き、図鑑の絵と比べながら

採れたての生の枝豆のさやに触れ・・・

「ねえ、触ってみようよ。面白そう♪」

「ツルツルじゃないね！」

「毛がある！！」

「ねえ、葉っぱみたいな匂いするよ」

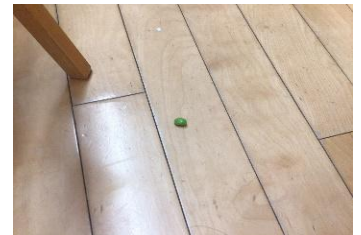
「まだ、たべちゃダメだよ」



そして、いよいよ収穫した枝豆を塩ゆでし、みんなでいただくことに。

「茹でる前と茹でた後では、どう違うかな?」「莢から上手く食べるにはどうしたらいいかな?」など子どもたちのつぶやきを逆に拾いながら、全体に問い掛けた。

塩茹でした枝豆をみんなで一緒に
「いただきます」



コロコロコロ・・・

「皮（さや）もちょっとしょっぱいね!」「プチプチしてるね」「何個入ってるかな??」
「（上手にさやから出せず）あっ! 枝豆が逃げた! 落ちちゃった💧」
「お家に持って帰りたい」「美味しーい!」「家でも枝豆お湯に入れてみよう!」
「ママ、作り方分かるかな?」「枝豆ってこうなってたんだね!」とただ食べるだけではなく、
「もっといっぱい育てたかったね!」と色々な思いを口にしながら、とても大事そうに一粒一粒を食べている姿があった。

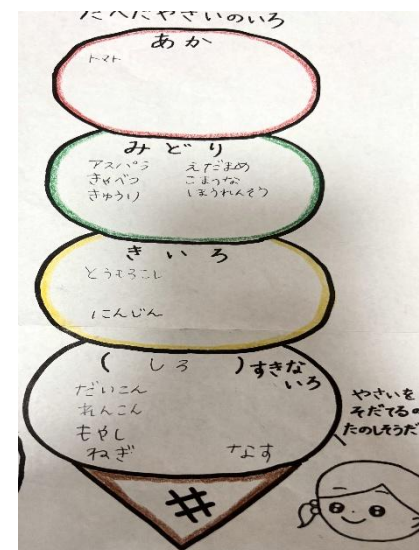
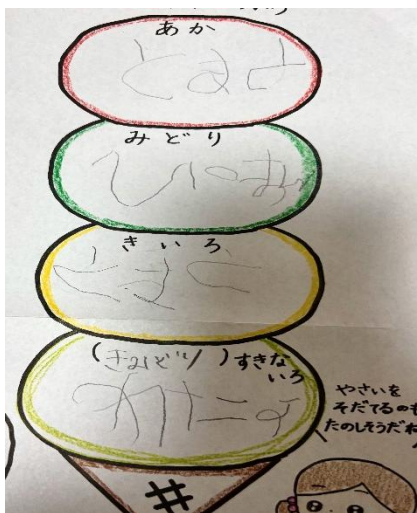
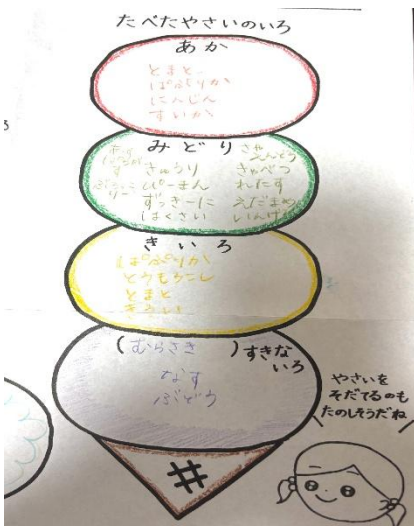
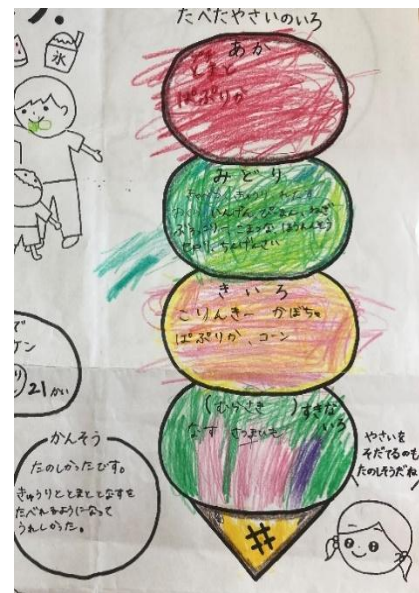
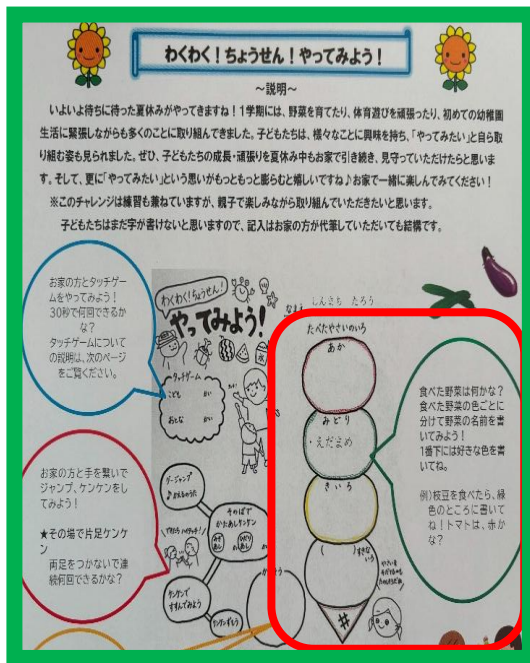
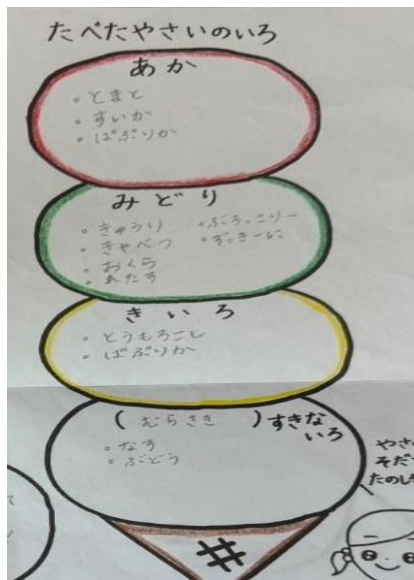
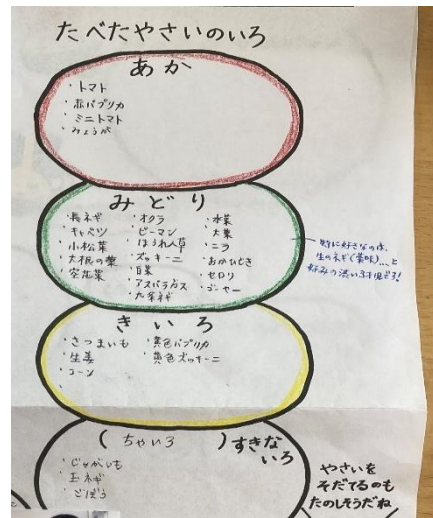
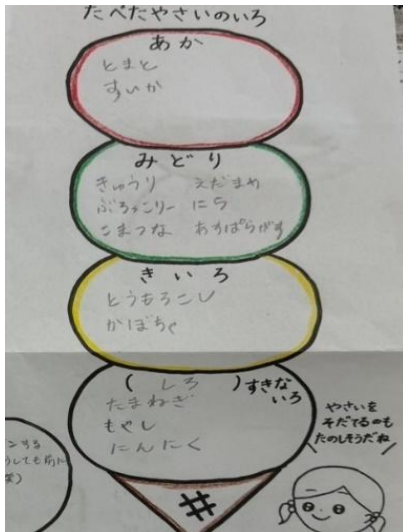
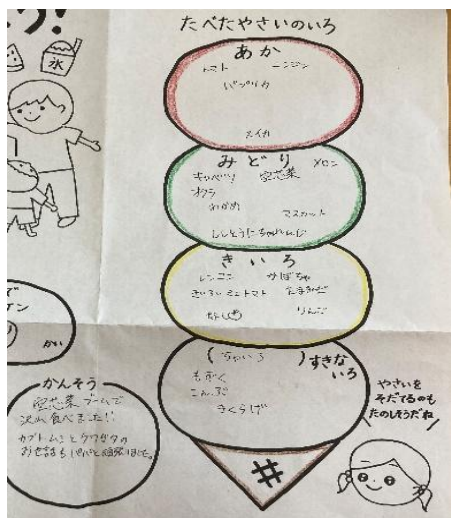
《振り返り》

枝豆の実、莢に包まれている。子どもたちの中には、初めて莢を見る子や莢から実（豆）を初めて自分で出して食べる子もいた。最近のご家庭で食べる枝豆は、すでに莢から出され実のみの状態で食卓に並んでいるのではないだろうか? 子どもたちが持ってくるお弁当でも枝豆の実がピックに刺さった状態で入っていることが多くなっているように思われる。栽培を通して、枝豆のなり方や収穫の仕方、また食べ方を知り、多くの経験を重ねることができたように思う。枝豆を食べるといった簡単な活動でも初めて尽くしのことが多く、子どもたちから驚きの声がたくさん聞かれた。子どもたちも枝豆を莢から直接食べることに悪戦苦闘しながらも美味しそうに、自分たちで育てた枝豆を食べていた。

今回、2本の苗は収穫せず秋までそのまま残し、枝豆の違う姿にも目を向けていこうと考えている。

番外編 「夏休みのチャレンジカード」より

●1学期に行った野菜の栽培により、子どもたちの野菜に対する思いも膨らみ、観察力や探求心が自然と育ってきたように思われる。そこで夏休みに「チャレンジカード」の取り組みを導入し、各家庭でいくつかの課題に親子で楽しみながら挑戦するよう呼びかけた。その中の1つとして、夏休み中に食べた野菜を色別に記入してもらうこととした。



夏休み明けに「チャレンジカード」が提出され、保護者の方の協力もありここでは例として、何人かの記録を記載させていただいた。ご協力に感謝しております。

1 学期に野菜を育てたことで、野菜に興味を示した子どもたち。色ごとに食べた野菜が記載されていたが、年少さんがあまり知らない野菜や食べるのが難しい野菜などの名前も多く挙げられていた。例としてズッキーニ・みょうが・にら・ゴーヤ・空心菜など。食べる際に、お家の方も意識して野菜の名前を子どもたちに伝えていたのではないと思われる。子どもたちだけではなく、保護者の方も意識してくださったことに嬉しく思った。

また、お家の方のコメントの欄には、「嫌いな野菜を食べられるようになった。」という意見が多く挙げられていた。また中には、「子どもと一緒に野菜を育ててみた。良い経験になった。」「実家に帰省した際に、祖父母の畑で野菜を育てていて、子どもが興味を示していた。」などの話も直接聞き、親子で素敵な体験をしたり、共感し合ったりできたことは素晴らしいことだと思った。

今回の「チャレンジカード」は、2 学期に行う「すくわく探究活動」に向け、子どもたちの野菜に対する思いを繋げてくれる、懸け橋となった。また「先生～問題！スイカは野菜でしょうか？果物でしょうか？」など問題を出す子もいた。興味を示すだけではなく、学びも多い夏休みを子どもたちは過ごすことができたようである。今後の「すくわく探究活動」が今から楽しみである。